

論  
稿ブラジルにおける中国文化外交と  
孔子学院の役割China's Cultural Diplomacy and the Role of the Confucius Institutes in  
Brazil

舩方 周一郎

MASUKATA, Shuichiro

## 要 約：

ラテンアメリカへの対外進出を強める中国を考えると、孔子学院の設置は中国の文化面からの世界展開と各国の警戒感を顕著に映し出す好事例である。2000年代になり中国とラテンアメリカとの関係は緊密化したものの、ラテンアメリカでの孔子学院の設置には不透明な点が多い。中国の文化外交としての孔子学院の設置は、相互依存論または中国脅威論に依拠して認識されている。とくにブラジルでの孔子学院は、文化活動の一環として2008年に初めてサンパウロ州立大学に設置された。しかし中国政府が進める「一帯一路」構想の発表後、この構想に統合されることで、孔子学院の設置は2019年時点で11カ所の大学に拡大した。孔子学院はブラジルでの中国語教育や広報活動だけでなく、中国企業への人材斡旋などの経済活動にも寄与している。設置先地域における中国語教育の普及の遅れなどの諸問題を抱えつつも、孔子学院は中国とブラジルとの文化交流や相互理解の深化に効果を上げている可能性がある。

キーワード：中国、文化外交、孔子学院、ブラジル、一帯一路

## はじめに

本稿の目的は、ブラジルにおける中国の文化外交と孔子学院（Confucius Institute）の活動が、両国の文化交流や相互理解にどのような効果をもたらしているのかを考察することである。2000年代以降、中国のラテンアメリカ<sup>1</sup>への関与は顕著となり、おもにアジア太平洋・ラテンアメリカ間の経済連携の深化から注目が集まっている〔岸川 2016; Wise 2020〕。中国政府が 2008 年に発表した「ラテンアメリカ政策白書」（China's Policy Paper on Latin America and the Caribbean）によれば、ラテンアメリカへ関与する中国の目的は、政治・経済・人文・社会・安全保障・司法など包括的な領域に及ぶ〔People's Republic of China 2008〕。

そのなかでもラテンアメリカへの対外進出を強める中国を考えると、海外での中国語や文化教育を目的とした孔子学院の設置は、中国の文化面からの世界展開と各国の警戒感を顕著に映し出す好事例である。たとえば、米中対立が先鋭化するなかで、米国では 2020 年 8 月 13 日、ポンペオ（Mike Pompeo）国務長官が孔子学院を「中国共産党の世界的なプロパガンダ機関の一部」と主張し、「国家の安全保障上の懸念」を理由に締め付けを強化している<sup>2</sup>。また米国以外でも、孔子学院を閉鎖・提携中止の対象とする国が増えている。

しかし、ラテンアメリカでは中国の孔子学院を通じた文化外交に関する研究の蓄積は、欧州やアジアなど他地域に比べて少ない。その理由として、文化と外交戦略とが結びついた孔子学院の実態がラテンアメリカであまり知られていないことや、中国の世界的な拡張戦略については客観的な分析よりも、おもに日米欧での警戒感や陰謀論が先行してきたことが挙げられる。とはいえ、孔子学院を先入観に囚われたまま考察することは、時として一方からの偏見を助長してしまう。批判するにせよ、擁護するにせよ、望まれる態度は安易な脅威論、悲観論、楽観論に陥ることなく、冷静に中国の文化面での対外政策を分析することや、孔子学院の実態への理解に努めることであろう。

本稿では、ラテンアメリカのなかでもおもにブラジルを事例として、中国の文化外交のひとつである孔子学院についてその存在意義を検討する。ブラジルは 1974 年の中国との国交正常化以降、2003 年に誕生した左派の労働者党（Partido dos Trabalhadores: PT）政権下で中国と緊密な関係を構築した。かつて、ブラジルの主要な貿易相手国は、1990 年代まで欧米諸国および近接する中南米諸国であった。しかし 2000 年以降、ブラジルとアジア諸国の貿易が活発となり、ブラジルの貿易取引額に占める割合は 2010 年にアジア諸国が欧米・中南米諸国を上回った。そして、2009 年に中国の輸出入合計の貿易取引額（392 億 9818 万ドル）が米国の合計（356 億 2757 万ドル）を抜き、2020 年現在に至るまで、中国はブラジルにとって最大の貿易相手国となっている。貿易統計に表れているように、ブラジルが経済的に最も依存する国は、21 世紀になって米国から中国へと移行した<sup>3</sup>。

<sup>1</sup> 本稿ではラテンアメリカを広義の意味でラテンアメリカ諸国とカリブ諸国を含めた 33 カ国とする。

<sup>2</sup> 「米国がおびえる孔子学院、次々と閉鎖『中国の支配下に』」『朝日新聞デジタル』、2020 年 6 月 8 日、2020 年 12 月 15 日アクセス。

<sup>3</sup> ブラジル経済省貿易統計 [Séries Históricas \(mdic.gov.br\)](https://mdic.gov.br) Blocos e países、2020 年 11 月 24 日アクセス。

ブラジルと中国は、政治・外交面でもブラジル・ロシア・中国・南アフリカによる新興国グループ BRICS の一員として、気候変動などグローバル・アジェンダに協働する関係にある。2020 年時点でブラジルは、ラテンアメリカのなかで国内に最も多く孔子学院を設置するなど、文化・教育分野も含めた中国との重層的な協調関係は深化している。

本稿では、ブラジルにおける孔子学院の歴史的展開と現状を整理することで、中国の孔子学院の活動とその普及が、諸問題を抱えつつも「一帯一路」構想（The Belt and Road Initiative: BRI）のもとで、両国の文化交流や相互理解に効果を上げている可能性を指摘する。

本稿の構成は、以下のとおりである。1 では、ラテンアメリカで中国がいかなる文化外交を展開してきたか、という問題の所在について、とくに孔子学院の設置に関する推移や域内ネットワークに焦点を当て概説する。2 では、中国の外交戦略としての孔子学院に関する先行研究を整理したうえで、孔子学院をめぐる視角を相互依存論と中国脅威論に分けて指摘する。3 では、ブラジルにおける孔子学院の歴史的発展と現状の活動を紹介する。4 では、ブラジルで最も早く設立されたサンパウロ州立大学（Universidade Estadual Paulista: UNESP）の孔子学院の活動を取り上げる。その活動がブラジルでの中国語教育や広報活動だけでなく、中国企業への人材斡旋など経済活動にも寄与している現状を課題とともに分析する。おわりにでは、ブラジル・中国の文化交流や相互理解における孔子学院の効果について考察する。



写真1 ブラジリア大学の孔子学院内に設置された展示物（筆者撮影）。

## 1. ラテンアメリカにおける中国の文化外交

### (1) 中国の台頭と文化外交

1978年、当時の中国の最高指導者であった鄧小平は、改革開放政策を導入した。1992年以降、社会主義と市場経済を組み合わせた体制を志向するなかで、外資を誘致することで中国の経済成長は加速していく。2001年に世界貿易機構（World Trade Organization: WTO）に加盟すると、国際市場においても中国の経済規模が占める割合は拡大した。その結果、中国はGDPで2010年に日本を追い越し、世界第2位の経済大国となった。しかし、2014年頃から中国経済は「新常态」（New Normal）と表現される成長安定期に入った。すると中国は、資源多消費型の成長路線とは異なる新しい経済成長モデルを模索するようになった。

中国の新たな経済成長モデルを特徴づけたのが、2013年に習近平国家主席が提唱し、2015年の全国人民代表大会における政府活動報告で強調された「一带一路」構想の推進であった。「一带一路」構想は、陸路で中国から中央アジアとロシアを経由して欧州につながる「シルクロード経済ベルト」（一带）と、海路で中国沿岸部から東南アジア、南アジア、アラビア半島、アフリカ東岸を結ぶ「21世紀海洋シルクロード」（一路）を合わせたふたつの空間で、インフラ整備などの資本輸出型の経済発展モデルを促進する計画である。

しかし「一带一路」構想に対して、おもに日米欧は警戒感を強めた。第一に、中国の「一带一路」構想を受け入れることで、債務により有形無形の拘束をうける「債務の罠」に陥る国が確認されたためである。第二に、自由民主主義とは異なる中国の価値体系が国際社会で十分に理解されないまま、軍備を増強した中国が海外での拡張主義を続けてきたためである。中国の動向に対する警戒感を前に、中国政府も「一带一路」構想をはじめとする対外戦略が世界から誤解されていると認識し始めた。そのため、構想の実現には、単にハードパワー（強制力）だけでなく、国際社会からの信頼を得るための国家行動が必要となった。

他方で、中国は「一带一路」構想の発表以前から、諸外国における中国語教育や中国語教師の育成を促進していた。中国語を通じた中国理解ができる人材を増やし、中国への好感度を高め、外国との友好交流を増進させるためである。「一带一路」構想の発表後、孔子学院の設置はこの構想の一部になった。現在の孔子学院の設置は、中国の文化外交の一環として、自国の対外的な利益と目的を達成するために実施されている<sup>4</sup>。

2020年時点で孔子学院は、北京市にある中国政府の教育部（Ministry of Education）内の漢弁（The Office of Chinese Language Council International: Hanban）が管轄している。孔子学院が行う中国語や文化教育などのプログラムは、海外の提携希望機関からの申請にもとづき、中国側のパートナー機関（おもに大学）と共同で策定される。中国側としては、海外の現地情報に精通したパートナーを得ることができる。提携機関側は、中国と初期投資を折半でき、計画の優先順位の

<sup>4</sup> 孔子学院は、もともと欧州諸国の主要な語学・文化普及機関である英国のブリティッシュ・カウンシル（British Council）、フランスのアリアンス・フランセーズ（Alliance Française）、ドイツのゲーテ・インスティトゥート（Goethe-Institut）、スペインのインスティトゥート・セルバンテス（Instituto Cervantes）などを模範に設立した [Masiero e Andrade 2018; Paulino 2019]。

決定や最終判断を下すことができる。孔子学院の設置などの協定締結は、双方の教育機関にとって利益となり、費用や人的資源の負担も小さいため、世界中に孔子学院を通じた中国のネットワークを構築することに成功している [渡辺 2012; Harting 2016]。

## (2) 孔子学院の特徴とラテンアメリカの反応

海外初の孔子学院の公式設置は、2004年の韓国のソウルに遡る。その後、孔子学院の設置は近接のアジアや欧米諸国を中心に急速に拡大した。2020年時点で、その設置は世界162の国・地域の550カ所以上となる。地理的に中国から最も遠いラテンアメリカにおいても、2006年にメキシコで孔子学院が設置されたのを皮切りに、域内諸国での設置が相次いだ。漢弁のサイトによると2020年時点において、孔子学院はラテンアメリカ33カ国のうち22カ国で設置され、ブラジル(11カ所)、メキシコ(5カ所)、ペルー(4カ所)、アルゼンチン(3カ所)、チリ(3カ所)、コロンビア(3カ所)の6カ国に複数あり、残りの16カ国は1カ所である(表1)<sup>5</sup>。

ラテンアメリカにおける孔子学院の設置には、少なくとも3つの要素を確認できる。第一に、中国との外交関係の有無や台湾(中華民国)の承認との関係である<sup>6</sup>。たとえば、パナマやドミニカ共和国などは、2010年以降に台湾との国交を断絶して、新たに中国と国交を樹立した。これらの国々では、中国との国交樹立の前後に孔子学院も設置されていることは特筆に値する<sup>7</sup>。

第二に、中国との実利的・経済的依存関係である。孔子学院が設置されるか否か、設置数が単数あるいは複数になるのかは、政権の政策位置や人口・経済規模などに起因している。2000年代にラテンアメリカの多くの国で左派政権が誕生し、中国とラテンアメリカとの協力関係を後押しした。この潮流にくわえて、中国は天然資源、エネルギー、インフラ事業で経済規模の大きなブラジル、チリ、ペルー、メキシコ、ベネズエラ、コロンビアの6カ国を重視している。中国と多くのラテンアメリカは実利主義に従って関係を構築しており、アルゼンチン、ブラジル、チリなどは右派政権に交代した後も孔子学院を設置している。

第三に、ラテンアメリカ側の大学がおかれた事情との関係である。ラテンアメリカ各国の教育省は大学の国際競争力強化にむけて、大学の国際化を推進している。大学の国際化は教育省の大学交付金の獲得にも直結するため、ブラジルなど財政難に苦しむ国立大学の関係者にとって、台頭が著しいアジア諸国の大学との交流協定は必須である。このようなラテンアメリカの大学側の事情も、中国の孔子学院の設置や教育機関との学術交流を求める動機となっている。

<sup>5</sup> [HanBan-Confucius Institute/ClassRoom-About Confucius Institute/ClassRoom](#), Hanban ウェブページ、2020年11月22日アクセス。

<sup>6</sup> ラテンアメリカにおける台中関係については、松田 [2020] を参照。

<sup>7</sup> 中国が中米カリブで対外政策を行う背景には、小国が多数隣接する同地域での信頼を勝ち取ることで、193ある国際連合の議席数の高い割合からの支持を獲得するねらいもある。

表1 ラテンアメリカにおける孔子学院の設置国と設置年（2006－2019年）

国名	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	合計
アンティグア・バーブーダ													1		1
アルゼンチン			1	1									1		3
ボリビア						1									1
<b>ブラジル</b>			<b>2</b>		<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>3</b>					<b>1</b>	<b>11</b>
チリ		1	1											1	3
コロンビア		2					1								3
コスタリカ			1												1
ドミニカ共和国													1		1
エクアドル					1										1
エルサルバドル													1		1
メキシコ	5														5
パナマ											1				1
ペルー		3		1											4
ウルグアイ											1				1
ベネズエラ										1					1
キューバ		1													1
ジャマイカ			1												1
バハマ			1												1
ガイアナ								1							1
トリニダード・トバゴ								1							1
バルバドス									1						1
スリナム											1				1
合計	5	7	7	3	2	2	2	4	3	1	3	0	4	2	45

（出所）Confucius Institute Headquarters (Hanban) より筆者作成<sup>8</sup>。

（注）HPに掲載された大学以外でも実際には孔子学院は設置されている。

ラテンアメリカで孔子学院が増加するなか、2014年にチリのサンチアゴに孔子学院の地域本部が創設された<sup>9</sup>。孔子学院ラテンアメリカ地域センター（Centro Regional de Institutos Confucio para América Latina: CRICAL）は、各国の学院による協力のもと、ラテンアメリカ域内での文化活動を組織・運営する業務を担当し、中国とラテンアメリカの関係を深める役割を担っている。CRICALは、年間を通じて指導方法などを教員間で情報交換するプラットフォームを提供し、漢弁の承認を得て、中国のエコノミストや作家などの著名人をラテンアメリカ地域に招聘するなどの文化事業も行っている [National Endowment for Democracy 2017, 29]。

<sup>8</sup> HanBan-Confucius Institute/ClassRoom-About Confucius Institute/ClassRoom, Hanban ウェブページ、2020年11月22日アクセス。

<sup>9</sup> CRICALがチリのサンチアゴに設立されたのは、2007年南米大陸では初めて孔子学院を設置したサント・トマス大学（Universidad Santo Tomás）と漢弁が、ラテンアメリカ全体に孔子学院のネットワークを促進するねらいを持ち設立に尽力したためと考えられる。

## 2. 中国の文化外交をめぐる視角と孔子学院の問題

### (1) 孔子学院をとらえる異なる見方

本稿で注目する中国の文化外交に関しては、国際関係論や文化人類学などで研究の蓄積がある。文化外交のひとつである孔子学院の設置は、おもに相互依存論あるいは中国脅威論に依拠して認識されている。もともと孔子学院は、国際協調・相互依存論の文脈のなかでナイ（Joseph Nye）の提唱したソフトパワー（Soft Power）を行使する中国の対外政策の一環として理解されてきた。ソフトパワーとは、強制や報酬ではなく、文化や政治的価値観を背景に他国からの好感をもって迎えらるるために活用される力である [Nye2004, 10]。中国の対外政策の根底には、平和的台頭（Peaceful Rise）や平和的開発（Peaceful Development）などのスローガンがある。孔子学院の活動もまた、そのスローガンの理解と中国語教育と文化交流を通じた現地社会との共存を促進するねらいがあると考えられてきた [Harting 2016; 張 2019]。

一方、早くから孔子学院は、中国脅威論の文脈でシャープパワー（Sharp Power）を行使する中国の対外政策の一環としても理解されてきた。ソフトパワーを影響力と定義するのに対して、シャープパワーとは中国やロシアなどの権威主義国が、世論調査や工作活動を通じて、民主主義国固有の特徴である言論の自由などがもつ脆弱性を逆手にとり、民主主義の基盤を脅かすために利用する外交手段である（National Endowment for Democracy 2017, 13）<sup>10</sup>。シャープパワーの存在を示した全米民主主義基金（National Endowment for Democracy: NED）の報告書 [National Endowment for Democracy 2017, 29-30] では、「中国は世界各地で世論とイメージ形成のために数百億ドルの資金を投入して、人的交流プロジェクトや文化活動を展開している。とくに中国語や文化を教える目的で、各国の大学に設置された孔子学院は、中国に不利になる研究や発表を取り下げるよう圧力をかけている」との指摘もある。

本稿は、上記のどちらかの視角にたち、考察を試みるものではない。しかしソフトパワーとしての見方であれ、シャープパワーとしての見方であれ、中国の文化外交をとらえる視角によって、孔子学院は多様に表象・理解される存在であることは確かである。

### (2) 孔子学院設置への批判・懐疑

文化外交は国に有形無形の利益をもたらす。そのため、国益の最大化を追求する国家行動に従って、中国以外の国も文化外交を活用してきた。ただし文化と国家権力が結びつくとき、渡辺 [2012] や Harting [2016] が指摘するように、孔子学院の設置には批判や懐疑がある。

第一に、孔子学院の活動は、国際世論づくりのための政府の政治的宣伝（プロパガンダ）と同質ではないかということである。外交上、不利益になるような歴史的・現代的な認識の修正を政府が教育機関を通じて求めることは、学問・言論の自由への侵害につながる [渡辺 2012; Harting 2016]。たとえば、孔子学院の設置時に中国の政府機関から巨額の資金援助を受けた米国のスタ

<sup>10</sup>ターゲットとする国の政治的・情報環境に穴を開けて貫通させようとする意味から「シャープ」という言葉が使われている。詳しくは阿南 [2018, 65-73] を参照。

ンフォード大学では、2011年の新疆ウイグル自治区における中国の人権侵害の問題について議論できないように、教員に圧力が与えられたとの疑惑が挙がっている<sup>11</sup>。

第二に、孔子学院が担う情報と文化は、国家が関与する以上、戦略性・強制力があることである。たとえ目的が相手国との友好関係を構築することにあっても、武器を文化に持ち替えただけの権力政治の発想から抜け出せていない〔渡辺 2012; Harting 2016〕。強制力が行使された結果、受け入れ大学の教師や学生に中国に都合のよい情報を提供して、今までの認識を改めさせることもできる。これらの危機感から、英国与党の保守党は2019年、「孔子学院には中国の共産主義プロパガンダを世界中に広める目的がある」との警鐘を鳴らした<sup>12</sup>。

さらに、渡辺〔2012, 149〕が指摘するように、文化外交の目的が相手国の国民の心と精神を勝ち取ることにあるとしても、その効果はどこまでなのか明らかではない。すなわち、中国による文化外交である孔子学院の活動の成果や効率を、営利事業と同じように数値などではかることには限界がある。本稿ではその限界を認めたくて、教育・文化分野から協調関係が深化するブラジルの事例に焦点を当てる。そして、ブラジルにおける中国の孔子学院の活動をめぐるねらいや目標、両国の文化交流や相互理解について確認する。

### 3. ブラジルにおける孔子学院の発展

ブラジルでは2020年時点で、11以上の大学が孔子学院を設置している。孔子学院を最初に設立したのは、2008年に湖北大学と協定を締結したサンパウロ州立大学（UNESP）である。同年には首都ブラジリアにあるブラジリア大学（Universidade de Brasília: UnB）にも孔子学院が設置された（表2）。

カンピーナス州立大学（Universidade Estadual de Campinas: UNICAMP）を北京交通大学の学長が2009年12月に訪問した際、双方の大学で学術協力や教員・学生の交換留学などに関する覚書が結ばれた。同覚書は2014年7月、ブラジルのルセフ（Dilma Vana Rousseff）大統領と中国の習近平国家主席の出席のもと、協定として公式に締結され、同大学で孔子学院が設置された〔Masiero e Andrade 2018, 41〕。

孔子学院は2014年のカンピーナス州立大学以外にも、2011年にリオカトリック大学（Pontifícia Universidade Católica do Rio de Janeiro: PUC-RIO）、リオグランデドスル連邦大学（Universidade Federal do Rio Grande do Sul: UFRG）、2012年にアルマンド・アルヴァス・ペンテアド財団（Fundação Armando Álvares Penteado: FAAP）、2013年にベルナンブコ大学（Universidade de Pernambuco: UPE）、2014年にミナスジェライス連邦大学（Universidade Federal de Minas Gerais: UFMG）とセアラ連邦大学（Universidade Federal do Ceará: UFC）で設置された。そのなかで、カンピーナス州立大学への孔子学院の設置に関するイベントに両国の国家元首が出席したことは、教育や文化レベルにとど

<sup>11</sup> “China Says No Talking Tibet as Confucius Funds U.S. Universities.” *Bloomberg*, November 2, 2011.

<sup>12</sup> 「孔子学院には「安全保障上の懸念がある」英与党、報告書まとめる」『大紀元時報日本』、2019年2月20日。ほかにも欧米諸国を中心に中国人講師の滞在国でのスパイ容疑も報告されているが、その真相は定かではない。

まらず国家の外交レベルでの孔子学院の重要性を象徴するものだったといえる。

表 2 孔子学院を設置した大学

孔子学院設置大学(州および連邦直轄区)	設置年
サンパウロ州立大学 (サンパウロ)	2008
ブラジリア大学 (ブラジリア)	2008
リオカトリック大学 (リオデジャネイロ)	2010
リオグランデドスル連邦大学 (リオグランデドスル)	2011
アルマンド・アルヴァレス・ペンテアド財団 (サンパウロ)	2012
ミナスジェライス連邦大学 (ミナスジェライス)	2013
ペルナンブコ大学 (ペルナンブコ)	2013
カンピーナス州立大学 (サンパウロ)	2014
セアラ連邦大学 (セアラ)	2014
パラ州立大学 (パラ)	2014
ゴイアス連邦大学 (ゴイアス)	2019

(出所) Confucius Institute Headquarters (Hanban)  
より筆者作成。

(注) HP に掲載された大学以外でも実際には孔子学院は設置されている。

しかし、2015 年前後からブラジルでは政治経済的な危機を迎えたことで、大学行政も財政難に陥った。そして、2008 年から継続してきた中国とブラジルの大学間協定にもとづく孔子学院の設置の動きも停滞した。

他方、リオデジャネイロのオリンピックへ出席するため、2016 年 8 月にブラジルを訪れた中国国務院の劉延東副総理が、サンパウロ州立大学の孔子学院で講演を行った。その会場で劉は、「ブラジルは孔子学院を最も多く設立する国であり、孔子学院が両国の文化交流と二カ国間関係のさらなる発展促進に寄与するものであること」を強調した<sup>13</sup>。ルセフ労働者党政権に代わり 2016 年 9 月 1 日、テメル (Michel Miguel Elias Temer Lulia) 政権が正式に成立すると、2017 年からゴイアス連邦大学 (Universidade Federal de Goiás: UFG) が孔子学院の設置に向けて交渉を開始した。同大学は 2019 年 6 月 28 日から 7 月 7 日のあいだ、中国の首都北京へ交渉団を派遣するなどの交渉の末、10 月 25 日に学術協定を締結した。この協定締結の調印式は、ボルソナロ (Jair Messias Bolsonaro) 大統領、中国当局、河北医科大学の学長、天津外国語大学の学長の出席のもと、ブラジル・中国経済貿易協力フォーラムにおいて行なわれた。なお、ゴイアス連邦大学の孔子学院はラテンアメリカで初めて、伝統的な中国医学コースを開設した<sup>14</sup>。

<sup>13</sup> “Discurso da Vice-Primeira-Ministra do Conselho de Estado da República Popular da China, Sra. Liu Yandong, no Instituto Confúcio da Unesp.” Embaixada da Republica Popular de China no Brasil ウェブページ、3 de agosto 2016、2020 年 9 月 22 日アクセス。

<sup>14</sup> “UFG firma parceria com o Instituto Confúcio da China.” FAPEG (Fundação de Amparo à Pesquisa do Estado de Goiás) ウェブページ、5 de novembro, 2019、2020 年 9 月 21 日アクセス。



写真2 ブラジリア大学内に設置された孔子学院（筆者撮影）。

#### 4. ブラジルにおける孔子学院と中国の対外戦略－サンパウロ州立大学（UNESP）

##### (1) サンパウロ州立大学の孔子学院の活動と目的

サンパウロ州立大学の孔子学院は2020年現在、サンパウロ州内13都市にある同大学の学生をはじめ、公立学校の基礎教育課程の学生や一般向けにも事業を提供している。教員はすべて中国人で、中国にある孔子学院の本部が任命や雇用をしている<sup>15</sup>。

サンパウロ州立大学における孔子学院のおもな活動は、①中国留学への奨学金の提供、②サマースクールの実施、③中国検定試験の実施、④文化活動である。①は湖北大学の中国語強化コースへの奨学金である。外国語としての中国語教育の修士号取得を目的として、奨学生は6カ月、1年、2年の期間で奨学金を受給している。②は中国での夏期研修の実施で、サンパウロ州の全キャンパスで参加希望の学生に留学奨学金を給付している。夏期研修への参加者は湖北大学のキャンパス内の宿舎に滞在して、中国語と中国文化の授業を履修する。③は、中国漢語水平考試（Hànyǔ Shuǐpíng Kǎoshì: HSK）と漢語水平口語考試（hànyǔ shuǐpíng kǒushì kǎoshì: HSKK）を実施するものである<sup>16</sup>。④は中国語教室に加え、中国文化を通じてブラジル人学生とサンパウロの中国人コミュニティを交流させる活動などを行っている<sup>17</sup>。

<sup>15</sup> Instituto Confucio na Unesp ウェブページを参照。

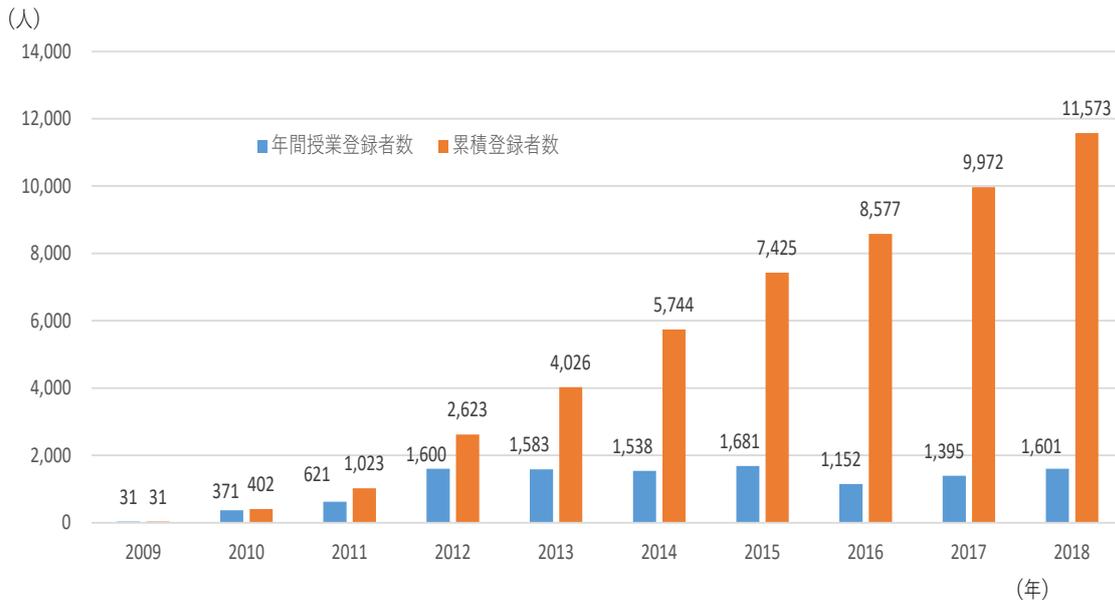
<sup>16</sup> HSK とは中国政府と同国の教育関連機関公認の中国語資格である。

<sup>17</sup> Instituto Confucio na Unesp ウェブページを参照。

(2) サンパウロ州立大学の孔子学院の成果

サンパウロ州立大学の孔子学院の活動は、少なくともふたつの点で両国の相互理解の促進に寄与している。第一に、ブラジル社会での中国語・中国文化の理解である。2008年に孔子学院を設置したサンパウロ州立大学では、中国語の授業の登録者数が2009年以降、累計で増加しており、年間でも近年は1,000人以上で推移している（図1）<sup>18</sup>。

図1 サンパウロ州立大学中国語年間・累計授業登録者数（2009－2018年）



（出所）Paulino [2019,179] をもとに筆者作成。

その理由のひとつは、中国留学に関心をもつ学生数が増加しているためである。孔子学院が提供する奨学金制度を活用して、2010年から2018年のあいだにサンパウロ州立大学の428人の学生が湖北大学に留学した [Paulino 2019, 181]。その留学経験は友人や後輩に伝わり、学生の中国留学・中国語学習への動機を高めている。一方の中国側にとっても、ブラジルへ派遣する中国人の教員や学生がポルトガル語を習得できるなど、よい機会となっている。

第二に、ブラジル人学生に就労機会を提供していることである。ブラジルにある中国企業は、サンパウロ州立大学の孔子学院が主催する就職フェアを通じて、同州のサンパウロ市やカンピーナス市をはじめ、リオデジャネイロ州などのほかの州でも、140名以上の雇用を提供している。採用の条件は、中国語や英語を習得している専門家である。募集の職種は経営者（営業、プロジェクト、財務、マーケティングなど）、エンジニア、営業担当者、アナリスト、インターンなどで、実際に募集人数以上のブラジル人が中国企業に採用されているという<sup>19</sup>。一般的に中国系企業のほうが現地企業より賃金が高いことが多いため、孔子学院が提供する中国語教育は中国企業への

<sup>18</sup> ただしブラジルにおける中国語学習のニーズも上昇傾向にあるため、サンパウロ州立大学での中国語履修者の増加は、孔子学院の設置による直接的な効果だとは断定できない。

<sup>19</sup> “Empresas chinesas no Brasil estão recrutando e têm mais de 140 vagas.” *Exame*, 20 de janeiro, 2020.

就職を望む学生たちにとって貴重な機会となっている。

また、ブラジルに進出する外国企業が抱える問題として、企業内で共有される言語や文化に関して知識をもつブラジル人の発掘が難しいことが挙げられる。ブラジルに移住する中国人が増えているものの、中国企業は市場のビジネス環境や法規制など、ブラジル進出の際に問題を抱えて頓挫してしまうことも多い。「一帯一路」構想のもとで中国企業の進出が顕著になり、中国の言語や文化の知識を備えた人材が求められるなか、ブラジルの孔子学院の活動はこのような需要の高まりに応じている。

### (3) ブラジルにおける孔子学院の課題

ブラジルでの中国語教育は、ほかの地域や言語に比べて最近始まったばかりである。Paulino [2019, 190-191] は、ブラジルにおける孔子学院の教育面の課題として、①外国人向けの質の高い中国語の教科書が少ないこと、②中国語教育に必要な資格をもつローカル（ブラジル人）教員を見つけることが難しいこと、③中国語を話せるブラジル人教員が少ないこと、④中国語をブラジル人に教える経験や伝統が不足していること、⑤ブラジル人学生の心理に対応する方法論が確立していないことを指摘している。ただしこれらの問題は、孔子学院を介したブラジルと中国のネットワークや大学間の連携を強化することや、孔子学院間での情報共有などによる経験の蓄積が進めば改善するものともいえる<sup>20</sup>。

## おわりに—孔子学院の設置による両国の文化交流や相互理解への効果

本稿では、ラテンアメリカの文脈における孔子学院の役割をとりあげ、そのとらえ方、設置の展開、活動を考察した。とくにブラジルにおける孔子学院は、中国語教育をはじめとする文化活動を通じて、中国をより理解し関係を構築できる新しい世代のブラジル人の育成に貢献している。この動向の背景には、国際協調と相互依存関係を前提とする中国による「一帯一路」構想のもとの重層的な試みがある。孔子学院が活動する地域では、中国語や中国文化を習得した人材が育成され、長期的に中国の対外宣伝の受け手になり、中国に友好的姿勢をもつ存在となることが期待されている [Villar e de Araújo 2016; Paulino 2019]。

他方、日米欧で表出されている孔子学院の設置をめぐる中国脅威論は、孔子学院の活動と効果がまだ小規模なこともあり、ブラジルでは顕在化していない。むしろブラジルの孔子学院は、ブラジル社会が中国に対して比較的好意的な意識を持っていることもあり<sup>21</sup>、経済依存関係にある両国の信頼関係の醸成に少なからぬ効果を発揮してきた。ただし、サンパウロ州保健局管轄の研

<sup>20</sup> 課題の克服には、二カ国間協議での決定も重要な役割をもつ。ブラジルと中国の副国家元首同士が指揮する二カ国間協定の最高機関である中国・ブラジル・ハイレベル協力委員会（Chinese-Brazilian High-Level Concertation and Cooperation Commission: COSBAN）には経済面での連携強化に加えて、文化面での協議も項目に含まれているためである。

<sup>21</sup> ピューリサーチセンター（Pew Research Center）の意識調査によれば、2009～2019年までのあいだ、中国に好意的、ある程度まで好意的な認識をもつブラジル人の割合は、50%前後を維持してきた。“China’s Economic Growth Welcomed in Emerging Markets, but Neighbors Wary of Its Influence.” *Pew Research Center*, December 5, 2019.

究所<sup>22</sup>の協力はあるものの、中国は COVID-19 のパンデミック下で自国開発のワクチン提供などの外交戦略をブラジルでも展開している。これらが反中意識を高めた場合、ブラジルの政府や国民は孔子学院に対する意識を変える可能性がある。今後の動向を注視したい。

## 参考文献

### 〈日本語文献〉

- 阿南友亮・佐橋亮・小泉悠・クリストファー・ウォーカー・保坂三四郎 2018.『シャープパワーの脅威』中央公論 Digital Digest, Kindle 版.
- 岸川毅 2016.「ラテンアメリカ・アジア関係の研究動向—中国の台頭をめぐる議論を中心に」、岸川毅編『アジア太平洋時代のラテンアメリカ—近年の研究動向と課題』ラテンアメリカ・モノグラフ・シリーズ 26. 上智大学イベロアメリカ研究所.
- 張雪斌 2019.『日本と中国のパブリック・ディプロマシー—概念変容に伴う新たな競争』ミネルヴァ書房.
- 松田康博 2020.「中南米地域をめぐる中台関係」、川島真・遠藤貢・高原明生・松田康博『中国の外交戦略と世界秩序—理念・政策・現地の視線—』昭和堂.
- 渡辺靖 2012.『文化と外交—パブリック・ディプロマシーの時代』中公新書.

### 〈外国語文献〉

- Comejo, Romer coord 2018. *La política cultural de China en América Latina*. El colegio de México. Centro de Estudios de Asia y África.
- Harting, Falk 2016. *Chinese Public Diplomacy: The Rise of the Confucius Institution*. London and New York: Routledge.
- Masiero, Gilmar e Ingrid Andrade 2018. “La diplomacia cultural de China en Brasil: el caso de los Institutos Confucio” en *La política cultural de China en América Latina*. Coord, Romer Comejo. El colegio de México. Centro de Estudios de Asia y África.
- Nye, Joseph 2004. *Soft Power: The Means to Success in World Politics*. New York: Public Affairs. (邦訳は山岡洋一訳『ソフトパワー—21世紀国際政治を制する見えざる力』、日本経済新聞社 2004年).
- Paulino, Luis Antonio 2019. “O papel dos institutos confúcio no Brasil durante no período 2008-2018: A experiencia do instituto confúcio no UNESP”. *Mundo e Desenvolvimento*, 1(2). Revista de IEEL.
- Wise, Carol 2020. *Dragonomics: How Latin America is Maximizing (or Missing Out on) China’s International Development Strategy*. New Haven: Yale University Press.

### 〈インターネット〉

- 桜井悌司 2020.「ラテンアメリカにおける孔子学院の活動」『ラテンアメリカ・カリブ研究所レポート』一般社団法人ラテンアメリカ協会 (<https://latin-america.jp/archives/44399>, 2020年9月21日アクセス).
- National Endowment for Democracy 2017. *Sharp-Power-Rising-Authoritarian-Influence-Full-Report.pdf*. (<https://www.ned.org/wp-content/uploads/2017/12/Sharp-Power-Rising-Authoritarian-Influence-Full-Report.pdf>, 2020年9月21日アクセス).
- People’s Republic of China, Ministry of Foreign Affairs 2008. *China’s Policy Paper on Latin America and the Caribbean*, ([http://english.www.gov.cn/archive/white\\_paper/2016/11/24/content\\_281475499069158.htm](http://english.www.gov.cn/archive/white_paper/2016/11/24/content_281475499069158.htm), 2020年10月11日アクセス).
- Villar, Heldio P. W.G. e José Guido C. de Araújo 2016. “O-papel-do-instituto-confucio na internacionalização universitária: A visão de Pernambuco.” Conferência FORGES (Fórum da gestão do ensino superior nos países e regiões de língua portuguesa), ([https://www.aforges.org/wp-content/uploads/2016/11/11-Heldio-Villar-et-al\\_O-papel-do-instituto-confucio.pdf](https://www.aforges.org/wp-content/uploads/2016/11/11-Heldio-Villar-et-al_O-papel-do-instituto-confucio.pdf), 2020年9月21日アクセス).

<sup>22</sup> ブタントン研究所 (Instituto Butantan) は中国バイオ製薬企業のシノバック・バイオテック (Sinovac Biotech) 社と提携して、COVID-19 用ワクチンを製造している。

[謝辞] 本稿の執筆にあたり、一般社会法人ラテンアメリカ協会の桜井敏浩氏から海外での孔子学院の活動に関する文献 [桜井 2020] 提供があった。情報整理や本稿の着想段階でも同文献を大いに活用したため、同氏と執筆者の桜井悌司氏に感謝申し上げたい。ただし、本稿の文責はすべて筆者にある。なお、本稿の内容の一部は、JSPS 科研費 (19K13632) の助成を受けたものである。

(ますかた・しゅういちろう／東京外国語大学)